

府中町ふるさと歴史散歩

〔第12回〕

文化財としての考古学の資料 ④ 弥生時代の資料

弥生文化は縄文文化の後を受けて紀元前400年ごろ大陸から、先ず北九州に入り、西日本へ広がった水稻栽培によるコメ作りの文化である。

府中町における弥生時代の遺跡は、今までのところ全く発見されていないが、弥生時代の土器片と石鏃などの遺物が報告されている。かつて弥生時代前期の典型的な遠賀川式の土器片が府中町北部の鶴江で出土したといわれているが、現物の所在は不明である。確実な資料は、府中中学校旧蔵の弥生時代甕形土器の口縁部破片（現在資料館所蔵）、下岡田の大窪谷遺跡で出土した甕形土器の破片があり、両者とも弥生時代中期頃のものである。また下岡田遺跡の出

土品の中にも少量の弥生式土器片が見つかっている。このような少量で断片的な資料をもって、農耕開始から約600年間続き、やがて人口増加と余剰生産物の蓄積等で貧富の差が生じ、血縁的な共同体

社会が分解して階級社会が誕生し、古代王権の成立という質的な大変化を読み取ることはできない。しかし遠賀川式土器は弥生時代前期を代表するもので、府中町と弥生時代前期の社会との関係の片鱗を垣間見ることができる。遠賀川式土器の分布は九州・瀬戸内・山陰・南四国・近畿地方を経て伊勢湾沿岸まで広がっている。これらの地域における遠賀川式土器の分布の共通性は、水稻耕作という弥生文

化が急速に東へ広がったことを示すもので、それだけに採集経済と雑穀栽培の原始農耕段階であった縄文時代晩期の

人々が、大陸から入ったこの新しい生産経済を積極的に受け入れたとも言えよう。

府中町周辺では、広島市東区中山東の中山貝塚、上温品の豊谷遺跡などがある。この豊谷遺跡から竪穴式住居の跡が多数発見されており、洪水などの災害を受けにくい高台が集落に選ばれた。この他、安佐北区口田の高陽台遺跡の大集落址や西願寺北遺跡の大

規模墳墓群、上深川町の上深川北遺跡の集落址などのように、弥生時代には太田川流域の平野や丘陵の方が発展していた。

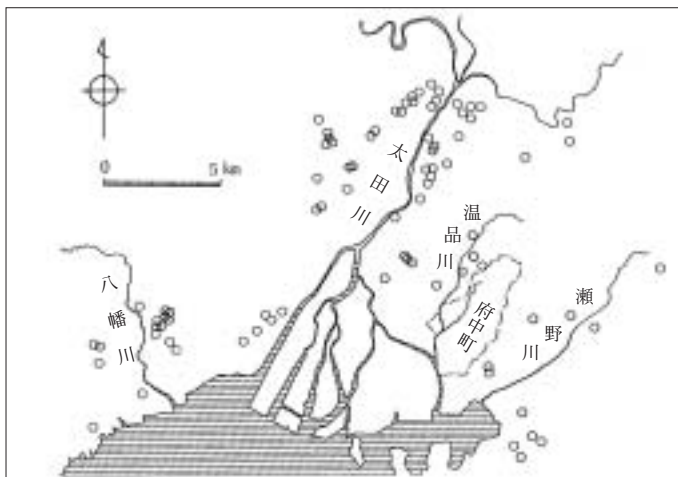
府中町文化財保護審議会

会長 横田 禎昭

問い合わせ

教育委員会生涯学習課

☎ 286-3272



周辺の弥生時代遺跡分布図



遠賀川式土器出土地

(佐原 真・金関 恕編「古代史発掘」4 1975より)